

発行：下阪本学区自治連合会 ・ 下阪本学区まちづくり協議会 下阪本市民センター
 発行者：連合会会長 真嶋龍道 ・ まち協会会長 三田光夫 下阪本3丁目14番30号 077-578-0017

第56回人権を考える大津市民のつどい 日吉ブロック『秋の集会』開催

あーよかったな、あなたがいて

～優しさという温かい貯金～



今年の秋の集会は講師に仲島正教先生をお迎えし、11月16日の午前10時より、下阪本小学校体育館で行われました。仲島先生は西宮市で21年間を小学校教師として、5年間は教育委員会事務局で奉職され、2005年からは教育サポーターとして全国各地での研修・講演活動を中心に、多方面で活躍しておられます。研修・講演活動では実に3500回を超える実績をつまれ、参加者に感動を与えてこられました。

講演と聞けば壇上の講師の話を静聴する印象ですが、仲島先生のはまったく異なります。壇上におられず、ときには聴衆の中を歩き回り、関西弁を軽妙にあやつりながら、生徒を諭すように語りかけて下さいました。始まって10分もすると、会場にいる私たちはすっかり生徒

になっていました。まずは先生の掛け声で全員が拍手をそろえるゲームで心を目覚めさせられ、笑いとお話で揺さぶられ、私たちはすっかり魅了されていました。1時間半ほどの授業、いや講演でしたが、先生が体験してこられたエピソードがベースのお話でしたので、身近な共感を覚えたり、新たに教えられたりと最後まで退屈することはありませんでした。

「人権」は現代社会にとって最も重要なテーマです。その奥が深く、しかも抽象的な言葉で語られることが多いので、私たちは日常生活に関係がない特別なものと思いがちになってしまいます。ところが、仲島先生の「人権」と「人権教育」は舞台が日常生活そのものであり、キーワードが「優しさ」なので何の抵抗もなく心に入ってきました。

予定時間の残りを使って参加者間のグループで自由に感想などが話し合われ、2グループの発表があり「自分の生活を振り返るきっかけが得られた」など、好評価と講演会と講師への感謝が熱く述べられました。



仲島正教語録

■人は、自分の「心の銀行」に温かい貯金があれば、つらいことや悲しいことに会ってもその貯金を使って乗り越えていくことができます。でも自分の心の銀行に貯金がない人は、つらいことに会ったとき「どうせ私には無理だ」「俺はもういいんだ」と、あきらめたり投げやりになってしまいます。温かい貯金とは、人と人の「つながりと感動」から生まれてきます。「あーよかったな あなたがいて あなたといて」こんな出会いこそが、人間を幸せにするのです。そしてそれこそが人権教育そのものなのです。

■人権教育とは難しいものと考えていませんか？人権を学ぶとは「人と人のつながり」を学ぶことです。そして、「優しい人」になるために学習するのです。本当の「優しさ」とは「強さ」でもあるのです。母親として、父親として、先生として、地域の一人として、いったいどんなことをすればいいのでしょうか。

そんな「温かい貯金」のつくり方を事例をもとにお話ししていきます。

—講師派遣/システムブレンのHPより—

「敬老会」を再開！

数年にわたり猛威をふるった新型コロナウイルスも落ち着き、久しぶりに下阪本学区社会福祉協議会主催の敬老会を9月15日に開催しました。当日は来賓を代表して佐藤健司大津市長より祝辞を頂戴しました。

長寿のセレモニーの後、余興として上方落語協会より月亭八織さんをお迎えし、「長寿」をテーマとした歯切れの良い落語に魅了され、参加いただいた皆さんの大きな笑い声が会場いっぱいに響きました。

(文・写真提供：下阪本学区社会福祉協議会 笠川常彦会長)



「文化祭」に山王祭駕輿丁の伊勢歌披露と甲冑を展示



11月2日、3日の両日、例年通り文化祭がおこなわれました。展示の部では幼稚園、小学校、児童クラブ、コミセン活動5団体、個人おふたりが作品を出品されました。小学校児童作品では今年も「ピカイチ賞コンクール」が行われました。また、山王祭駕輿丁が祭りパネルとビデオを出展。健康推進協議会が「健推カフェ」を運営されたほか、有志の皆さんが甲冑を出展され、子どもが子ども甲冑を着用しての写真撮影も行われました。

演芸の部では8サークル・団体が参加、楽器演奏、体操、歌唱とダンスを披露。中でも今年は山王祭駕輿丁の皆さんが大松明をかついで日吉大社に向かわれる時に謳われる「伊勢歌」を力強く、朗々と披露されました。2日の悪天候の中584名が来場され、出品、出演、運営、設営協力された皆さん有難うございました。



「市民運動会」今年も盛り上がりました

まだまだ暑さが残る10月6日、晴天の下、市民運動会が開催されました。3年連続の午前開催でした。以前、全日開催を経験した者としては一抹の迫力不足を感じるものの、準備する側も参加する側も負担が軽くなり、それでいて盛り上がり方には大差がないようで、「ニュー・ノーマル」や「持続可能」という言葉が思い浮かびました。準備運営にあられた体育振興会や各自治会の体育委員の皆さんお疲れさまでした。



* しもさかもと再発見 ---湖都彩々--- ⑱ * PHOTO: HORII TADAO



雪の志津浜湖岸緑地 (2024/1/8)

びわ湖畔は雪の朝を迎えました。昇る朝陽で放射状に伸びる樹木の影が印象的でした。



雪の七本柳 (2024/1/8)

七本柳緑地公園から坂本城址公園を見た風景です。静寂が辺りを支配していました。